

# 幻のいも『紅赤』

## 発見110年



今年、浦和の山田いちさおが、1898年（明治31年）に「紅赤」のサツマイモを発見してから110周年目にあたります。川越いもは、江戸の焼き芋屋用のいもとして発展したもので、赤蔓・青蔓の2種類がありまして、共に味が良く、江戸時代から明治にかけて江戸・東京で「本場もの」とされてきました。ところが、110年前それよりも色や形、そして味がさらに優れているサツマイモが現れました。それが「紅赤」です。「八つ房」といういもが突然変異したもので、それを見逃さなかったのが、山田いちさおです。

いちは、父が42歳で亡く、岡三喜蔵さんという人です。二つた12歳の頃からサツマイモ作りをしていました。いい種いもからいい苗ができ、いい苗からうまいサツマイモがとれることを知っていたので、毎年味がよくなり、村で一番の作り手と言われるようになっていました。近隣の村で八つ房といういいサツマイモを作ったと聞いたいちさんは、いいサツマイモを作りたいと何度断られてもお願ひして、やっと3本の種いもを譲ってもらった。その後、八つ房の中から突然変異した真っ赤なサツマイモ「紅赤」を発見したのでした。

それを普及したのが親類の吉岡三喜蔵さんという人です。二人に共通していたのは、紅赤を独占しないで、他の人と分け合う欲も得もない農業を愛する精神でした。今日、野菜の品種で100年以上続いているものは少ないといわれています。戦後、収量が多く甘みのある紅東が普及し、紅赤の生産は少なくなり、三芳町上富がその少ない産地として残っているのみです。大事に守っていきたいですね。



『紅赤ものがたり』

### 編集後記

9月1日開会の議会も16日間の会期を終え無事閉会した。林いさお通信も8月末以来の発行。この間、議会に専念していただきました◆昨年に続き、2度目の決算審議の議会。他の議員さんも専門分野や独自の視点で質問され、大変勉強になります◆我々の質問によって一歩でも町政が前進すればいいが・・・成果を作り出せないとしたら、まだまだ力が足りないというところである◆さあ、また一から出直します。

★林いさお後援会事務所  
電話 049-259-2228  
FAX 049-258-0968  
〒354-0045 三芳町上富1003  
FAX 049-258-0968  
林いさおオフィシャルウェブサイト  
<http://www.isao.bz/>